

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 伊賀市	対談項目1 城下町と農村部の 魅力を生かした観光 振興について	①伊賀地域だけでな く、三重県の資産と しての忍者の活用	<p>ロゴも作り、忍者といえば伊賀市だけかと思うが、名張にもある。県でも忍者の協議会を作っていたら、どんどんこれを世界に発信していくということで頑張っていたらいい。</p> <p>六本木でキャンペーンをやっていたら、相乗りをさせてもらったが、忍者ショーもずいぶん外国の方に喜んでいただいた。</p> <p>知事も忍者の恰好をしていただいたら、どうでしょう。</p>	<p>今年を逃してはいけないということで、「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」という観光キャンペーンをやらせていただき、ゴールデンウィークまでの観光客も好調。意外と遷宮と言いつつも、台湾やタイのお客さんが喜ぶのは忍者列車だったりする。忍者は、阿修羅もパリに行ってきたが非常に受けがいい。</p> <p>「世界に誇るコンテンツ」ということで「忍者と海女」を特に力を入れている。伊賀流忍者観光推進協議会の皆さんががんばっていただき、ロゴマークを作っていたらいい。</p> <p>台湾の人は、もともと、日本のことについてよくご存知だが、中でも見てわかりやすいものが好きで、忍者はすごい人気がある。台湾で今年の3月に首都の台北と台中で三重県の物産展をやったが、その時に手裏剣投げのブースも一緒に出した。物産も人気だったが、このブースに長蛇の列ができた。みなさんに手裏剣投げを体験していただき、非常に人気があった。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
				<p>コンテンツという意味では「忍者と海女」をもっとブラッシュアップして、いろんな情報をしっかりまとめてデータベースにして発信するとか、ロゴマークを作るとか、そういうことをやらせていただいている。いろいろリンクをして、東京で三重県のPRをやる時には、忍者も必ず来てもらうとか、伊勢神宮だけではなく、まとめて一緒にPRすることでよく理解してもらえる。</p> <p>忍者の恰好は相談してみます。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 伊賀市	<p>対談項目1 城下町と農村部の魅力を生かした観光振興について</p> <p>②首都圏営業拠点の活用や三重県観光キャンペーンとの連携</p>	<p>使う方たちが使いやすいようにしていただくとありがたい。</p> <p>この10月末から11月にかけて浅草のすし屋通りで、伊賀のおいしいものを持って行き、それぞれのお店にレシピを考えていただき、物産をキャンペーンしてこようと思っている。私が行ってレポートもする。</p>	<p>9月に東京日本橋に営業拠点の「三重テラス」を開店する。いわゆる、アンテナショップだが、アンテナショップは普通に薄く広く県内の物産が何の特徴もなく置いてあったり、薄く広く何の特徴もなく観光パンフレットが並んでいるが、体験型や学べたりできるおもしろいものにしたい。芭蕉の不易流行の考え方を東京の若いビジネスマンに学んでもらったり、芭蕉生誕370年を記念してのセミナーをやっていただいたり、忍者学を披露していただいたり、いろんなことができるスペースを設けてあるので、ぜひ市町のみなさんにも、自治体の場合には無料でお貸ししているのだから、使ってください、そこを拠点に市町と民間と一緒にPRをやっていければと思っている。</p> <p>旬のものを提供できる、地元に来ないと食べれないものを一部の期間だけ少しだけ提供する。これを全部食べようと思うと地元に行かないといけないというような提供の仕方をしていきたい。例えば伊賀牛のような、地域で消費される率が高くて、なかなか大きいマーケットに回りにくいレアなものを少し提供して、これを食べに地元へ来てくださいというように、「旬・限定・レア」ということを生かした食の提供をしていきたい。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
			<p>市町のみなさんが使いやすいように、雇用経済部が、エリア担当職員を置いて、地域防災総合事務所と一緒に伊賀地域のみなさんの要望を聞かせていただき、利用しやすいように使うということなので、どんどん遠慮なくご提案いただき、協議をさせていただいて、「伊賀市ウィーク」のようなものもありだと思ふ。今までだと東京のホテルを借りて、予算もたくさん使っていたところを、無料で使っただけ。</p> <p>浅草のような形で何かやっていただいている時期に、連携して、首都圏の営業拠点でサポートさせてもらえることがあれば、是非させていただきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 伊賀市	対談項目2 芭蕉翁生誕370年 関連事業への取り組みについて		<p>「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」 のロゴマークに芭蕉がかかれていない。 来年は芭蕉生誕370年。ぜひ格段のご配慮をいただきたい。</p>	<p>発言なし。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 伊賀市	対談項目3 「農林産物のブランディング」について	<p>農林産物は、情報戦が大事。地元での受け皿、主体を作っていないといけない。大変おいしい伊賀肉も、生産量が少ない。最近の話では、6～7件の畜産農家が新しい子牛を入れずに廃業している。担い手育成、営農が大事。</p> <p>この地域について言えば、伊賀市の高齢化率は28%。所によっては、50%近くになっている。そうした方々が農林業を支えていただいている。県の方でもサポートいただきたい。われわれも、どうしたら後継者が来ていただけるのか。地域においてリーダーが育つことが大事。若い人に限らず、ベテランでもいい。意欲のある人が出てこないといけない。JAも県も市も地域に出かけて行って、アドバイスをしながら育てていくことが大事。</p>	<p>県では「地域活性化プラン」で各集落ごとに、目標を持って営農形態を進めていこう、国では「人・農地プラン」で各集落ごとの水田を中心とした経営をしっかりとみんなで考えてやっていこう、集落ごとに営農形態を作っていくプラン作りを応援させていただいている。県独自の「みえの就農サポートリーダー制度」を作って、若い担い手を呼び込む仕組みを構築した。</p> <p>担い手としてやっていくためには、生活できる基盤を作らないといけない。所得が上がるように、出口をしっかりと作っていく。大きなマーケットだけでなく、地域のみなさんに食べていただくことも含めた地域の直販所や地域のレストラン。その一方でコストを削減していく。燃料、飼料、衛生面のこと。県ではこの4月から畜産課を作って、三重県の畜産業の方向性を議論している。担い手のこと、コストのこと、出口のことも議論している。市長や伊賀市の現場のみなさんからいろんな意見をいただき、みんなで進んでいける方向性づくりをしていきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
				<p>自分たちのもののいいところをよく知ることが大切。気づきの場の提供を県でもやらせていただいているので、ご活用いただきたい。意外と自分たちのもののいいところを知らない。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 伊賀市	対談項目4 「みえ森と緑の県民税」市町交付金事業の指針について	伊賀は山国だが、間伐ができてない。間伐したところも切り捨てになっている。搬出の時に、補助金を出している。なるべく山を荒らさないように、緑は水源に関わってくる。水源涵養についてサポートしていく、理解を深めていくことが大事。「みえ森と緑の県民税」がいただけるようになったら、普及啓発もしっかりやっていって、物事を解決していくことになればいいと思う。用途指定はされてないので、地元の間がどれだけ意欲を持ってやっていけるか。	一人年間1,000円。未成年者は対象外など一定の免除される方もいるが、林業のことに使わせていただく。税収の半分は、県の方でハード整備に使わせていただく。間伐材をしっかりと切るとか、災害に強い森づくりに使わせていただく。残り半分を市町のみなさんに使っていただく。使い方は、各市町で判断して使っていただく。例えば、地元の木を使いたいすを小中学校で使ったり、環境教育をしたり。 下流に対する啓発、広報も含めて市町の交付金の中で自由に使っていただける。自由すぎてよくわからないという声もあるので、この8月にもう1回市町の担当者の皆さんに全体で説明会をやらせていただく。地域機関ごとに説明会をやらせていただき、来年度以降の予算編成等のサポートをしっかりやっていく。
6 伊賀市	対談項目5 大規模災害の発生に備えた上野総合市民病院の強化について	大災害の際、伊賀は三重県内において、バックアップができる重要な場所だと思っている。	5つの広域防災拠点の中で、四日市は東日本からの、伊賀は西日本からの、物資や救護部隊の拠点として、他の防災拠点もサポートする拠点として想定している。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
7 伊賀市	対談項目5 大規模災害の発生に備えた上野総合市民病院の強化について		物資の経路を確保する意味で、名神名阪連絡道路を早くつくりたいと思っている。	名神名阪連絡道路について。嘉田知事に共に頑張りましょうと言っている。
8 伊賀市	対談項目5 大規模災害の発生に備えた上野総合市民病院の強化について	①近隣府県に所在する大学病院等との連携強化に係る支援	上野総合市民病院は、医師、特に内科の医師が不足している。県の応援がほしい。	医師の確保については、伊賀地域は、東紀州地域と並んで医師が少ない地域となっている。修学資金で医学生が三重県に残るように中長期的にやりつつ、短期的には寄付講座やバディホスピタル、都心の方から来てもらえるよう、無料職業紹介で全国の医師に照会をかけて働きかけている。
9 伊賀市	対談項目5 大規模災害の発生に備えた上野総合市民病院の強化について	②病院の施設整備に係る支援	病院にヘリポートを作ることへのサポートもお願いしたい。	ヘリポートの整備、自家発電装置の増設、応急用の資機材、衛星電話、簡易ベッドなどの支援をするために地域医療再生基金で国に要望している。夏には内示が出ると思う。伊賀市の方でやっていただく部分について、ご協議いただいで、振り分けさせていただければと思う。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
10 伊賀市	対談項目5 大規模災害の発生に備えた上野総合市民病院の強化について		伊勢湾岸地域に高度医療が集積しているが、大災害のときに、県民の皆さんの治療をするのは難しいと思う。伊賀地域は、物資だけではなくて医療についてもサポートできる地域ではないかと認識しているので、将来的なこの地域の医療のあり方について、しっかりと検討を進めていく必要がある。	今年度、医師の需給調査の詳細なものをやっている。それを踏まえて、役割分担も含めて、今後の地域の医療をどうしていくかを考えていければと思う。